中部人懇通信 No.4

学級担任対象

平成２７年９月２９日（火）に、やまびこ人権文化センターで学級担任を対象とした中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

現地研修「差別の現実から学ぶ」

《講師のお話より》

〇三度の大きな水害が４０年の間に起こった。多くの死者や行方不明者をもたらし、惨状は想像を絶するものだった。大きな被害を受けた原因は集落立地（地形）によるものだった。

〇この村は、氾濫の起こりやすい立地に居住を強いられたため、絶えず大洪水の危険にさらされ、大きな犠牲（労力的、経済的、精神的）を払いながら部落差別と闘ってきた。

〇家が流出した住民のために、空いた部屋や家を貸して、互いに苦しい中を耐えて共に助け合う村の気風があった。

〇村の移転事業は、簡単にできたものでない。度重なる水害からの解放要求、人間としての生存権要求など地域ぐるみの協力体制によって完成された。

〇部落差別の完全解消と新しいまちづくりを目指し、「小集落地区改良事業」に取り組んだ。子どもたちには、解放運動への取組や誇りをもって住めるまちづくりのバトンを受け取ってほしいと願っている。

土手からの説明

下吉真二さん、中尾美千代さん、森康雄さん、御助言くださり、ありがとうございました。

グループ協議「現地研修で学んだことをどのようにいかすのか」

グループ協議では、現地研修の感想を交流しながら、参加者自身がこれまでの生活を振り返り、今後の生活の中で生かしていくことについて話し合いました。「差別の現実と向き合うためにも、現地で話を聞き、知ることが大切である。」「自分自身が正しく学ぶこと。また、自分のこととして学び続けることが大切である。」など、たくさんの意見が交わされました。

【参加者の感想より】

〇個別具体的な人権課題について、学習を通して見えてくる普遍的な価値を身近なことにどのように気づかせていくのかが大切と改めて感じた。

〇現地研修会で差別解消に向けて取り組まれてきた人々の「生の話」を聞くことで、自分自身の差別に気づく目や差別を許さない心を育てていきたい。また、この思いを子どもたちに伝えていきたい。

〇他の地区とたくさんの共通点があったため、学習を深めることができた。解放運動に学ぶことの大切さにあらためて気づいた一日だった。

〇水害後に土地を分け合ったり、被害が少なかった家で共同生活をしたりしたという話を聞いて、地域の人々のあたたかさを感じた。

【まとめ】

３人の講師の方の話により、解放運動に関わった人たちの思いや努力に触れることができました。そして、苦しいときにお互い助け合う強いつながりや安心して暮らすことへの願いの実現に向けた熱意を改めて実感する研修でした。参加者は現地で学んだことから自分自身を見つめ直し、人権学習に対する思いを新たにすることができました。研修の終わりには、ボテ茶がふるまわれました。地区の皆様、センターの職員の皆様、ありがとうございました。

伝統の味「ボテ茶」